

直後から入院費用を工面するため家族が走り回りましたが、市役所に生活保護を申請すると「加害者が支払うべきだから手が出せない」、法律扶助協会からは「こういう場合、加害者が支払えないなら、泣き寝入りするしかない」と言われました。やっと生活保護が認められたときには、入院から2ヶ月たっていました。退院後、地元で生活保護を受けようとしたのですが、当時の保護課の課長より「犯罪被害者と関わって、この町まで被害に遭いたくないから」と却下されました。やっと2ヶ月かけて隣町で保護が認められましたが、最初の2ヶ月と退院後の2ヶ月間の医療費合わせて4百数十万円を請求されました。

医事課の方より「どうして、ここの病院に運ばれてきたのか。他の病院に行ってくればよかった」「あなたが病院代を支払ってくれば、この病院は成り立っていくんだから、早く支払ってください」「あなたが刑務所へ病院代を取りに行け！」「被害者は味方もいないし、いつも頭を下げていないといけない」などと言われ続けていました。

私は、医事課に「母、一人に対して5、6人で請求するやり方はおかしいのではないですか」「加害者が支払うと言ってますので、加害者に請求してください」と言いましたが、請求は何年も続き、ついに家まで押しかけました。

生活保護を受けていく中で、私は被害に遭い発汗作用がないため、クーラーの使用を認めてほしいとお願いしましたが、保護課から「クーラーはぜいたく品だから駄目だ」と却下されました。体調を崩したのち、やっと

クーラーの使用を認められたのです。私が担当者に「何のために生活保護はあるのですか。社会復帰のためじゃないのですか」「もし、あなたが私のように犯罪の被害に遭われた時、どんなに屈辱的な思いをするか、わかりますよ」と言うと、担当者は「そんな馬鹿な犯罪には遭いませんから」「だから保護費を出してやってんだろう。ガタガタ言うな！」「カウンセリングに通いたいなら、勝手に自費で行ってくれ」などと言われ続けました。

現在、加害者は出所して苗字を変え、のうのうと結婚し家庭をつくり、会社を営んでいます。加害者からは一切の治療費の支払いも補償もありません。私は、やっと社会復帰を考えられるようになり、職業訓練学校へ行きパソコンを覚えました。事件発生から現在に至るまで空欄なため、なかなか職が見つかりません。

今は、月2万円の生活保護と月6万円の年金で生活しています。年金は以前、勤めていた厚生年金が適用されたため、申請を行ったことで今の金額となりました。光熱費、食費、病院へ通う際の交通費などやり繰りをしていますが、とても厳しい状況にあります。もし職場に採用されたら、今後は自分で治療費など支払っていかなければならないという問題もあり葛藤する思いです。何も悪いことをしていないのに、被害に遭われ後遺症が残ってしまった費用をどうして自分で支払うのか、悔しさは増すばかりです。加害者は、今では何もなかったように楽しく生活していることでしょう。いわゆる逃げ得です。謝罪してほしいのではありません。加害者は治療費、一生の補償をすべきであり、事件前のすべてを返してほしいのです！ ありがとうございます。

